

SFRR Japan NEWSLETTER

June, 2023



TOP NEWS



次期（任期：2024年総会～2026年総会まで）
代議員選挙の公示が間もなく行われます。
（7月のご案内予定）

Coming Soon!

現代議員は次回代議員総会（2024年5月：第77回年次学術集会の予定）終了後、全員、任期満了となりますので、引き続き代議員を希望される先生方、また新たに立候補をご予定の先生方におかれましては、HP上で公示内容をご確認のうえ、立候補くださいますよう、宜しくお願い申し上げます。立候補条件を必ず確認の上、必要書類を揃えて、期日までにお願います。詳細については、別途メールでご案内予定です。なお、代議員選挙終了後、引き続き役員（理事・監事）の公示を11月頃に予定しております。立候補予定者はご予定お願いいたします。

注意）立候補は新規・更新とともに会費完納者が対象となります。
会費納入忘れにご注意ください！



水無月のご挨拶



理事長 内藤 裕二
（京都府立医科大学学生体免疫栄養学講座 教授）

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症になり、2023年5月には第76回本学会学術集会在リアルに開催されました。久しぶりに、理事会、代議員会、情報交換会などを対面で実施することができ、多くの参加者のもと交流が行われました。学術集会当番会長の芦田 均先生に厚く御礼申し上げます。

さて、理事長として2期目となりました。さまざまな課題に取り組みながら、本学会の持続可能な発展に貢献していきたいと考えています。まず第1に、異分野交流を積極的に進めることを考えます。酸化ストレス、レドックス関連のシグナルはさまざまな生命現象に関与することは明らかです。老化研究においては老化細胞が話題ですが、老化細胞を誘導する最大の要因は酸化ストレスです。若返り作用が期待されるNMNもミトコンドリアNADを増加させ、酸化還元シグナルの主役です。ビタミンC、ビタミンEなども本学会で盛んに議論してきましたが、来年の日本ビタミン学会第76回大会（2024年6月、福井開催）での合同シンポジウムを企画したいと思います。第2に、若手研究者、女性研究者の積極的な支援を考えています。学会の財政的な基盤も整え、各支部でのセミナー、若手フリーラジカルスクールなどでの交流を推進していく予定です。第3にオフィシャルジャーナルJCBNの充実を進めたいと考えます。長らく、豊國先生とともにJCBN編集に参画してきましたが、IF2022も低下し、少し危機感をもっています。編集委員も若手の研究者に参加いただき、IF向上に向けた取り組みを進め、さらには財政的収入についても対策を進めたいと思います。

5類感染症となった新型コロナ感染症ですが、再び沖縄や鹿児島で増加傾向にあります。会員の皆様におかれましては、基本的な感染対策を実施しながら、アカデミアとしての活動を推進しなければならない難しい状況です。会員各位におかれましては、睡眠を含めた規則正しい生活に気をつけつつ、研究生活を送られることを希望します。



◇◇◇ 年次学術集会開催報告 ◇◇◇

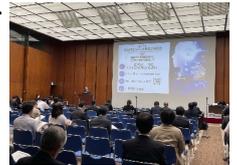
第76回日本酸化ストレス学会学術集会



会 期：2023年5月24日（水）～25日（木）
会 場：神戸国際会議場/神戸ポートピアホテル
（兵庫県神戸市中央区港島中町6-9-1）
会 長：芦田 均
（神戸大学農学研究科生命機能科学専攻・教授）



第76回日本酸化ストレス学会学術集会は、「臨床系と基礎系研究のさらなる融合を目指して」をテーマとして、神戸国際会議場で全面対面で開催することができました。久々の対面開催であり、多くの方々にご参加頂きましたこと、対面ならではの熱い議論が交わされました。



学術集会への参加者数は、正会員（功労会員と名誉会員を含む）177名、学生会員58名、非会員67名、総計302名でした。神戸ポートピアホテルで開催した情報交換会の参加者数は、正会員（功労会員と名誉会員を含む）95名、学生会員39名、非会員16名、総計150名で、参加者の約半数が情報交換会にもご出席されました。



ご発表頂いた演題数は、特別講演2題、教育講演2題、学会賞受賞講演1題、学術賞受賞講演2題、シンポジウム13題、若手シンポジウム4題、学術奨励賞候補講演1題、一般口演56題、ポスター発表60題、ランチョンセミナー3題、アフタヌーンセミナー2題、モーニングセミナー1題でした。学術集会前日の5月23日（火）には、神戸ポートピアホテルにて理事会と理事意見交換会を行い、多くの理事の先生方にご出席頂きました。



ご参加、ならびにご発表いただきました先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

日本酸化ストレス学会 川柳 絶賛大募集中

5・7・7のリズムに乗せて、酸化ストレスあるある、
気軽に捻って見ませんか？

☂ 睦月の川柳 ☂



「コロナ明け 酸化してない 友の顔」

「学会で 脂質過酸化 進む夜」

「懇親会 ポスの小言も うわのそら」

「院生も 対面式は 初体験」

「10年後 老化するのか AIも」

「気をつけて その一言が パワハラに」

「実験の 合間にアイデア 思いつく」

（これまでの応募作品）

誰の作品か考えながら、お楽しみ下さい(〇)

優秀な作品は、次年度の年次学術集会で表彰致します。



◇◇◇ 次期年次学術集会案内 ◇◇◇

第77回日本酸化ストレス学会学術集会



会期: 2024年5月17日(金)～19日(日)
会場: 神奈川歯科大学 (横須賀市稲岡町82)
会長: 李 昌一 (神奈川歯科大学 社会歯科学系
健康科学講座災害歯科学分野 教授)



第77回日本酸化ストレス学会学術集会を2024年5月17日(金)～19日(日)の3日間、神奈川県横須賀市 神奈川歯科大学で開催させていただきます。本学会の前身である日本フリーラジカル学会の創成される前の研究会の準備などをお手伝いしながら参加してきました。光陰矢の如し、30年以上を経て、大会長を引き受ける立場となり、場所も原点を振り返る意味と、できる限り時間の許す限り熱心に皆様方に発表や討議していただくために、ホテルなどの施設ではなく、関東地域の研究会の創成期の間でもありました神奈川歯科大学とさせていただきます。

今回の第77回学術集会も日本NO学会との合同で「第77回日本酸化ストレス学会/第23回日本NO学会合同学術集会」となる予定です。テーマは「人生100年時代をともに生きる ～健康長寿を実現する酸化ストレス・NO研究の今と未来～」としまして、日本だけではなく、グローバルにおいても迎える人生100年時代の生物医学研究の鍵となる酸化ストレス、NO研究を今一度、社会的にはもちろん、次世代生物医学研究者にも発信、認知していただけるような学術集会となれば、と願っております。プログラムについては、準備を鋭意進めて参りますが、現在のところ、これまで通りの特別講演、教育講演、シンポジウム、一般口演、ポスター発表を行い、従来の形式にない企画もプログラム委員会で検討する予定です。

学会会場のある横須賀市は古くから軍港として栄え、街中いたるところにその面影が色濃く残っており、軍の施設跡やアメリカ文化を取り入れた名物など、独自の文化を感じ取ることができます。横須賀三大グルメと言われる「よこすか海軍カレー」「ヨコスカネイビーバーガー」「チェリーチーズケーキ」をぜひ、ご堪能ください。観光スポットとしては世界の三大記念艦の三笠だけではなく、「YOKOSUKA軍港めぐりクルーズ」では、自衛隊の護衛艦をはじめ、米軍のイージス艦や潜水艦などを間近で見られることもできます。スカジャンに代表されるアメリカ文化を感じさせるとどぶ板通りなどもあります。また、少し足を伸ばせば、有名な古都鎌倉観光だけではなく、マグログルメで有名な三崎港、逗子・葉山という美しい海と穏やかな気候、落ち着いた雰囲気が魅力の人気リゾート観光地があり、葉山マリーナ、一色海岸などの定番観光地やおしゃれなカフェも多く、特に女子に人気です。さらに足を伸ばせば、定番の横浜観光も含めてさまざまな神奈川県屈指の観光スタイルを楽しむことも可能ですので、学会共々楽しんでいただければ幸いです。これからも鋭意準備を進めて参りますので、会が盛会となりますよう是非とも会員の皆様方のご参加をお願いしますと共に、関係各位のご支援を心よりお願い申し上げます。



◇◇◇ 次々期年次学術集会案内 ◇◇◇

第78回日本酸化ストレス学会学術集会



会期: 2025年5月もしくは6月
会場: 神奈川県あるいは東京都
会長: 鈴木秀和
(東海大学医学部医学科 内科学系消化器内科学教授)

2025年(5月or6月)の第78回開催に向けて鋭意準備を進めて参ります。本会は、第50回日本微小循環学会総会と合同開催させていただきます。日時・会場が決定しましたら、お知らせ致します。どうぞよろしくお願い申し上げます。



～ 2023年度 各賞受賞者 喜びの声 ～

各選考委員会による厳正な審査を経て、理事会・代議員会の承認の下、下記受賞が決定いたしました。受賞者の皆様の今後の益々のご活躍を祈念いたします。(受賞者の声は、次号と2回に分けて掲載予定です。)



「2023年 学術賞 を受賞して」

神谷 哲朗
(岐阜薬科大学 臨床薬剤学研究室 准教授)

この度は、栄誉ある日本酸化ストレス学会学術賞を頂き、大変光栄に存じます。内藤裕二理事長、松浦達也選考委員長をはじめ、選考に携わって頂いた先生方、また、お世話になりました多くの先生方に厚く御礼申し上げます。

私は大学院生時代(岐阜薬科大学・生化学研究室)から酸化ストレスに関する研究を開始し、2007年に本学会の前身である日本過酸化脂質・フリーラジカル学会において初めて学会発表をさせていただきました。当時は、ディーゼル排気粒子に含まれる化学物質による血管内皮細胞傷害について、活性酸素種および活性窒素種の関与の観点から研究をしていました。翌年、足立哲夫先生(現名誉会員)の主宰する同大臨床薬剤学研究室の助手として採用して頂き、細胞外のレドックス恒常性の破綻とがんや血管系疾患との関連性についての研究を開始しました。細胞外分泌型の抗酸化酵素であるSOD3は、他のSODアイソザイムと比較し、その生理機能や発現制御機構など未解明な領域が多く、手を動かすことにより新しい知見がどんどん得られることが非常に楽しかったとよく覚えています。2013年からは1年間イリノイ大学に留学し、深井 透先生(現オーガスタ大学)の下で銅シャペロンAtox-1の転写因子としての新規機能についての研究を行いました。現在では、SOD3の他、lysyl oxidaseなどの分泌型酸化酵素、それらのタンパクへ銅を供給する銅輸送タンパク(ATP7AやAtox-1)へと研究ターゲットを広げ、銅代謝関連タンパクの機能異常とがんの進行との関連性についての研究を進めております。

私のモットーは「興味のあることをとことんやる」です。今後も自身の研究を通して、がんや銅代謝異常、酸化ストレスとの関連性の更なる理解に貢献していく所存です。また、フリーラジカルスクールや年次学術集会での若手の会主催シンポジウムを企画・運営することで、本学会の発展にも貢献していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



「2023年 学術賞 を受賞して」

鈴木 教郎
(東北大学 未来科学技術共同研究センター・教授)

この度は、栄誉ある日本酸化ストレス学会学術賞を受賞することができ、大変光栄に感じております。内藤裕二理事長をはじめ、選考委員の方々に厚く御礼申し上げます。また、これまでご指導いただきました先生方、ならびに共同研究者の方々に感謝いたします。私は、2016年から「酸素医学分野」という看板を掲げて研究活動に取り組みしており、酸素とヒトの関係について探究しています。生命は進化の過程で酸素を利用した効率的なエネルギー産生システムを確立し、高い運動能力や複雑な高次機能を獲得しました。最近の研究から、酸素の利用は、生命進化の強力な推進力となったと考えられる一方で、酸化ストレスの発生源として、老化や様々な疾患にも深く関与することがわかってきました。このような酸素の正と負の側面、すなわち必要性和毒性の視点から生命現象を解明することが私の研究の主題です。2021年からは、東北大学未来科学技術共同研究センターに「酸素代謝制御プロジェクト」を立ち上げ、これまでの基礎研究の成果を創薬や医療に応用する研究を開始しました。今後は、本受賞を励みとして、自身の研究を発展させるとともに、後進の指導を通して本学会に貢献する所存です。引き続き、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

2022年度学会賞・学術賞 受賞記念講演
第76回年次学術集会にて対面にて行われました。

おめでとうございます。



学会賞(鈴木秀和)



学術賞(岡崎泰昌)



学会賞(谷戸正樹)

「2023年 学術奨励賞を受賞して」



鳥海 拓都
(筑波大学 数理物質系)



この度は、名誉ある学術奨励賞をいただき、大変
光栄に存じます。指導教員である長崎幸夫先生を
はじめ、共同研究者の皆様、研究室のメンバーに心
から感謝申し上げます。また、本学会にて、領域を超えて様々な専門の
先生方とお酒を交わしつつ厚く議論させていただいたことも一つの要因で
あったと思います。厚く御礼申し上げます。これからも面白く、異分野にも
インパクトある研究をいたしますので、今後とも(お酒を交えつつ)ご指導
ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

「2023年八木記念学術奨励賞を受賞して」

佐藤 康太郎 (名古屋大学)



この度は八木記念学術奨励賞を受賞することができ、
大変光栄に思います。関係者の皆様へ厚く御礼
申し上げます。本受賞論文では、口腔内からの
感染にはTMPRSS2が重要である可能性が示唆され、
「飲酒」および「女性」がその発現を増強させることを
初めて示しました。味蕾および神経周膜にACE2およ
びTMPRSS2の発現を確認できたため、今後はそれらに結合している関連
タンパク質を解析することで味覚障害の機序を解明することを目指し、さら
には口腔内からのアプローチによるCOVID-19予防法開発を目指したい
と考えております。本受賞を励みに、より一層研究に励んで参りたいと考
えております。

High Citation Award
2022年度受賞者:

- (1) 総説:Yoshiro Saito
(Selenoprotein P as an in vivo redox regulator: disorders related to
its deficiency and excess. p1-7, Vol.66-1, 2020)
- (2) 原著:Yuji Naito and et al.
(Association between selective IgA deficiency and COVID-19:
p122-125, Vol.67(2), 2020)



JCBN (学会オフィシャルジャーナル) 情報
(Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition)



オンラインによる投稿随時受付中!
Online SubmissionのURL

<http://www.editorialmanager.com/jcbn/>

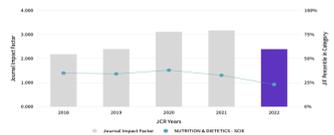
2022 JOURNAL IMPACT
FACTOR
2.4
View calculation

JOURNAL IMPACT FACTOR WITHOUT SELF
CITATIONS
2.2
View calculation

Journal Impact Factor Trend 2022 Export

IF : 2.4

頁チャージは
会員特別割引価格を
設定しています。



※特別審査・掲載なども受付しております。(別途有料・編集事務局宛にご相談下さい。)
Editorial Secretariat for JCBN: jcbn@nacos.com

次期 (任期: 2024年総会~2026年総会まで) 代議員選挙・理事選挙に立候補
予定の会員の方は、JCBN投稿に関する応募規約を必ずご確認ください。
理事選挙: (3) 選挙公示日より遡って過去5年間に、関連領域において、発表論文
が、学会誌「Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition (JCBN)」最低1編を含む、
5編以上有するもの(共著者可)。
代議員選挙: (3) 関連領域において、発表論文が、学会誌「Journal of Clinical
Biochemistry and Nutrition (JCBN)」に最低1編を含む、5編以上有するもの。(共
著者も可)

◆◆◆学術奨励賞応募について◆◆◆

一般演題公募と同時に公募致します。

- 1 酸化ストレス研究の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待さ
れる研究者に対し授与する。ただし、研究業績はその主要な部分が日本国内
で行なわれたものに限る。
- 2 当該年の4月1日において40歳以下で会員歴3年を有するものとする。た
だし、女性にあっては前項の年齢制限を45歳以下とする。

学術奨励賞応募の際のご注意!

会員歴不足の為、応募取り下げとなるケースが多く見られます。
上長・指導者は、若手奨励のために、早めのご入会をご留意下さい。

応募に際しては、会員歴にご注意ください。(入会した年を1年目とする。)
2024年応募の場合は、2022年もしくはそれ以前に入会している必要がありま
す。(2022,2023,2024 で3年)

◇◇◇ 学会報告 ◇◇◇

「フリーラジカルスクール2022に参加して」

~若手の会活動報告~



若手の会 代表 安井 博宣 (北海道大学)

背丈を超えるほどの雪が積もった北海道札幌市の定山溪温泉・倶楽部
錦溪において、2月23日、24日の二日間にわたり、フリーラジカルスクール
2022を開催いたしました。今年も昨年同様、ハイブリッド開催として45名(う
ちオンライン13名)の参加者が全国各地から集い、最先端の研究につい
て議論するとともに懇親会を通して情報交換を行いました。内藤裕二理事
長をはじめ、学会を代表する13名の講師の先生方からは酸化ストレス研
究における基礎から応用、臨床にいたるまでの幅広い研究成果をお話し
いただき、多くの若手研究者や学生にとって貴重な学びの機会になりまし
た。一方で、学生からも多くの鋭い質問があり、関連な質疑応答を通し
て知識を深めようとする姿勢が見られました。夕食後に行われた学生発表で
も多くのすばらしい発表があり、夜遅くまで講師の先生方あるいは学生
同士で議論できたことは、合宿形式で行われる本スクールの醍醐味で
あったかと思えます。そんな中、学生発表の最優秀演題賞は北海道大学
の加藤美羅さんの「褐色脂肪組織の形成・増生時にビメンチンのチロシン
残基がリン酸化される」が選ばれました。また本年より新たに設けられた、
積極的な質問と討論を行った学生に授与される「若手の会会長賞」には
筑波大学の鳥海拓都さんが選ばれました。

開催地となりました定山溪は、冬は深い雪に覆われ、普段雪を見慣れな
い人にとっては貴重な体験となりました。そんな極寒地で行われた本ス
クールですが、倶楽部錦溪さんのすばらしい会場施設、料理、温泉など
のおもてなしにより、寒さを感じることなく楽しく参加することができまし
た。まだコロナ禍の状況が続く中、徐々にオンラインから対面へ開催形式が
戻ってきており、改めて対面開催の重要性を今回のスクールを通して
感じました。一方で、オンラインでライブ配信することで、多くの先生方
のご講演や学生の口頭発表は、Zoomを利用して聴講することができ、会場
に行かずともその臨場感を味わうことができました。Wi-Fi環境や質問者
の音が遠く聞き取りにくいなどの改善点は見られますが、基礎的な知識に
加えて最新の研究成果など、フリーラジカルや酸化ストレスに関わる多く
の情報を得ることができ、学会とは異なる勉強会という雰囲気や画面越し
に伝えることができたかと思えます。本来であれば、休憩時間や食事中、
就寝前まで研究の話をする事ができる環境が現地にはあり、オンライン
での参加はフリーラジカルスクールの醍醐味を十分に味わうことができな
いと思います。しかし、このスクールのような新しい知識を得ることができ、
学ぶ楽しさを知ることができる場は魅力的であり、今後もより多くの若手に
知ってもらうために、オンラインからでも気軽に参加できるハイブリッド開催
を継続した方が良く改めて感じました。

次回は福井県の温泉施設での開催を予定しています。より多くの方々
が現地参加いただけるよう企画・運営を行って参りたいと思っておりますので、
引き続きの若手の会主催のフリーラジカルスクールへのご支援をどうぞよ
ろしくお願致します。



◇◇◇ 関連学会 開催案内 ◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにても随時情報を掲載予定です。

日本酸化ストレス学会 東海支部 第12回学術集会

日時：2024(令和6)年2月10日(土)13:00から
会場：岐阜市文化センター
(〒500-8842 岐阜市金町5丁目7番地2)
実行委員長：原 宏和 先生(岐阜薬科大学)



日本酸化ストレス学会 関東支部 第36回学術集会

日時：2023年12月3日(日)
会場：LiSE 川崎生命科学・環境研究センター
会長：大野 彰子(国立医薬品食品衛生研究所)
事務局：吉川 環(国立医薬品食品衛生研究所)
問い合わせ：E-mail: 36th-sfrjkb@nihs.go.jp
関東支部HP: <https://sfrj-kanto.blog.jp/>



関連国際学会

21st Biennial SFRR Meeting Joint with 30th Society for Redox Biology & Medicine — International Biennial Meeting

Date: November 15-18, 2023
Venue: Punta del Este Convention & Exhibition Center,
Punta del Este, Uruguay
Contact: sfrbm.org



2024 SFRR-E annual meeting

Date: June 5-7, 2024
Venue: Movenpick Hotel in Kurtköy, Istanbul
Contact: <https://www.redoxistanbul2024.com>



新 シリーズ:酸化ストレスの轟き 第9回



パッカー研の思い出

安西 和紀
(日本薬科大学)

私は、放医研に異動してから酸化ストレス分野の研究を始めたが、その初期に酸化ストレス研究で有名なLester Packer教授の研究室(カリフォルニア大学バークレー校)で、短期間(1996.3.31~6.29)ではあるが研究する機会を得た。研究室は、教授と秘書3名、小ボス3名、ポストク7名、大学院生2名、学部学生や私のような客員研究員・客員教授などが数名と合計30人を超える大所帯だった。一方、研究室は1つの大部屋が教授室や色々なコーナーに区画されていて、日本の大学の普通の研究室より手狭だった。でも、教授は「狭い方がコミュニケーションのためには良いのだ」と考えていた。教室員の誕生日等には必ずケーキパーティーが開かれていたのも良いコミュニケーションの結果(原因?)かもしれない。研究室が狭いので、様々な合理的工夫とルールがあった。実験台のスペースをはじめとして実験に関わるものは全て共有で、空いていれば誰でも自由に使用して良いというのもその一つだ。これって、日本の研究室でも使えると思った。教授は夜7時には帰宅するという規則的な生活だったが、日中は多忙で、無駄な時間は使わないという考えが徹底していた。例えば、昼食はカップヌードルですますことが多く、買い置きしてあった。一方、仕事以外の自分の時間も大切にしており、休日には自分のヨットで奥様とセーリングを楽しんだり、毎週金曜日にはレストランで食事を楽しんだりしていた。これには研究室の何人かを招待することが多く、私も3ヶ月の間に何回も招いていただいた。私のバークレーの3ヶ月は研究2/3、遊び1/3だった。研究は2つのテーマに関与した。1つは新規に導入されたESR装置を使って客員研究員の野田泰子さん、当時日本電子にいた河野雅弘先生と真明正志さん達と天然物の抗酸化活性をESRで測定するというものであった。この成果を発表した論文は被引用回数が200回を超えてしまっていて驚いている。もう1つの研究は電磁場が生体に与える影響を調べるというもので、ネガティブな結果しか得られなかったが細胞培養の技術を習得することができた。遊びでは、岡山大学の森昭胤先生や野田さんと一緒にサンフランシスコ湾でよく釣りをした。また、サンフランシスコの町やヨセミテ国立公園なども楽しんだ。私の経験から、若い人には、是非留学して見聞を広めることをお勧めしたい。

◇ SFRR International & Asia News ◇

SFRR Asia

次回 SFRR Asia Biennial Meeting

The 11th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research-Asia (SFRR-Asia)

Date: 2024年(予定)
Venue: 北京・中国(予定)
会長: Chang Chen (Institute of Biophysics, Chinese Academy of Sciences)
担当: SFRR China



役員改編: 2022-2023

President: Prof. Young-Joon Surh, PhD. (Korea)
President-elect: Prof. Chang Chen, PhD. (China) (新任)
Secretary-general: Dr. Osamu Handa, MD, PhD. (Japan)
Treasurer: Prof. Hidehiko Nakagawa, PhD. (Japan)



SFRR Australasia and Japan:

次回 SFRR A+J Biennial Meeting

11th Joint Meeting of Society for Free Radical Research Australasia and Japan (SFRR A+J 2024)

会期: 2024年12月(予定)*今後検討
会場: Australia (予定)



SFRR International:

— 役員改編:

President: Giovanni Mann (UK) New *Jose Vina後任: 任期満了で交代)
Secretary General: Patricia Oteiza (USA)
Treasurer: Linn Mantell (USA)
President-elect: Roland Stocker (Australia) New



Official Journal

Free Radical Research (Official Journal; SFRR Asia)

Editor-in-chief: Koji Uchida (Univ. of Tokyo)
Tailor & Francis より継続的にサポートを頂き、若手の奨励賞を授与しています。

Travel Award, Young Investigator Award, Prestigious Poster Award等 (過去実績 副賞: 800€, 500\$, 1年間の無料購読など)

SFRR Japan(日本酸化ストレス学会)は、SFRR International並びにSFRR Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会員の方は自動的に両国際組織のメンバーとなっております。

◇◇◇ 事務局より ◇◇◇

2023年5月から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、「新型インフルエンザ等感染症(2類相当)から「5類感染症」に移行されました。移行に伴い、学会活動や研究活動の制限も解除されつつあります。4年ぶりの現地対面開催となりました神戸での第76回学術集会では、懐かしい笑顔をたくさん拝見することが出来ました。皆さまも対面の良さを改めて感じられたのでは無いでしょうか? それにしても、サンバのリズムに合わせて、ベテラン/若者の垣根なく、輪になって踊れるとは思いませんでした(笑)。直接表情を見ながらの発表や討論はやはり熱も入り、楽しいと思われたのでは無いでしょうか? コロナが終息したわけではありませんので、今暫く、感染対策は講じながらの日常が続きますが、梅雨明けとともに、更に明るい日々が来ますように願いを込めて、NL6月号をお届けいたします。

掲載希望の記事などございましたら、編集事務局宛ご連絡をお願いします。

NL問合せ/連絡先: sfrj@koto.kpu-m.ac.jp



SFRR Newsletter 2023年6月号

発行: 2023年6月30日

一般社団法人日本酸化ストレス学会事務局
(総務委員会: 半田 修・犬童寛子・中西郁夫)

法人事務局: 〒602-8048

京都市上京区下立売通小川東入西大路町146番地 中西印刷(株)内

Tel: 075-415-3661 Fax: 075-415-3662

内容に関するお問い合わせ: E-mail: sfrj@koto.kpu-m.ac.jp

HP: <http://sfrj.umin.jp/>